


平成 29 年度 研究サマリー

研究会名称	EPOC 研究会	
代表者所属	学校法人金城学院 学院長	
代表者氏名	戸苺 創	
<p>研究方法・結果</p> <p>在胎 33 週未満の低出生体重児の約 5%に Periventricular Leukomalacia (PVL)が発症することが判明している。また、その PVL を両側性に発症した場合、ほぼ 100%に脳性麻痺 (CP) が発症することが判明している。また、分娩時に一過性徐脈や母体炎症所見を伴っている場合にはその頻度が 20%に上昇することも判明している。然るに、いまだ原因および予防法が確立されていない。</p> <p>エリスロポエチン (EPO) には神経保護作用のあることが分かっている。我々の基礎研究で、PVL モデル動物に EPO を投与し、劇的な効果がみられたこと、小規模の臨床試験でその安全性が確認出来たことから、臨床での応用を目的に多施設共同研究の臨床試験を実施してきた。最も精度が高いとされる二重盲検試験を実施し、エントリーが終了した症例におけるフォローアップを順次行なっている。</p>		
<p>研究成果</p> <p>現在、総登録数 47 例のうち、初期検査施行例 (未記載例) および後期検査施行例が 80%の症例で実施され、今後、95%で検査が施行されたことが確認された時点で、盲検解除にて、投与群、非投与群間での差の有意検定を行う予定である。良好なる結果 (エリスロポエチン投与群で脳性麻痺の発症率が有意に低い、あるいは重症度の軽減) が得られた場合、あるいはその可能性が見られた場合、封筒法による追加臨床試験を計画する。</p>		